

米国、カナダ、オーストラリア 3カ国の豆類の生産見通し概況

米国：2015年10月9日公表ほか

USDA Crop Production

8月の農業気象概況(2015年9月11日公表)

8月の気温はコーンベルト地帯及び大平原(グレートプレーン)地域北部で平年並みを下回り、作物が成熟に向かう時期に十分な気温が得られなかった。ロッキー山脈西側の大部分の地域では気温が平年並みを上回り、降水量が平年並みを下回ったことから、早魃の状況は改善されなかった。アラバマ州、フロリダ州、アイオワ州及びミズーリー州では、狭い範囲ではあるが、8月の降水量が平年並みを127mm以上上回る地域が散見された。

9月の農業概要(2015年10月9日公表)

米国の大部分の地域で9月の平均気温は平年並みを上回った。大平原地域、コーンベルト地帯北部及び米国北東部の各地で、9月の平年並みの気温を3.3℃以上上回った地域が散見された。このように、米国の主要農業生産地域で気温が温暖であったことで、秋作物の成熟が促進され、収穫が順調に進んだ。太平洋沿岸地域北西部及び太平洋沿岸地域南東部の一部の地域では、9

月の気温が平年並みを下回った。

降水量の水準は米国各地でまちまちであり、大平原地域中央部、大西洋沿岸地域中部、メキシコ湾沿岸地域及びフロリダ州では、9月の総降水量が152.4mm以上となった。しかし、西部、大平原地域北部、大平原地域南部及びミシシッピ川沿岸渓谷地域南部で降雨が見られなかったことから、西部では引き続き早魃の状況となり、ルイジアナ州及びテキサス州では早魃状況が悪化している。

乾燥インゲンマメ

2015年度の米国の乾燥インゲンマメ生産量は前年度から4%減少して128万tとなる見込みである。作付面積は2014年度に比べて2%増加して71万haとなる見込みである。収穫面積は2014年度に比べて2%増加して69万haとなる見込みである。米国全体の平均単収(単位面積当たり収穫量)は1,847kg/haの見込みであり、2014年度に比べて118kgの低下となる。

ノースダコタ州では、収穫は10月4日までに95%が終了しており、最近5年間の平均の73%に比べて大幅に早くなっている。8月中旬の高温で乾燥した気象条件によ

り、作物の生育が妨げられ、単収が低下した。ミシガン州では、9月の収穫時期に雨が多く、10月4日までに61%の収穫が終了しており、最近5年間の平均をわずかに上回る程度に留まっている。

ミネソタ州の収穫は10月4日までに98%が終了しており、最近5年間の平均を18%上回っている。10月4日の時点でネブラスカ州の収穫は80%が終了しており、平年並みをわずかに上回っている。

表1 米国の乾燥インゲンマメ生産見通し（2014年及び2015年）

作物名	作付面積(ha)		収穫面積(ha)		単収(t/ha)		生産量(t)	
	2014	2015	2014	2015	2014	2015	2014	2015
Dry beans, peas and lentils								
オーストリアンウィンターピー	9,710	11,330	6,800	8,500	1.5		10,180	
乾燥インゲンマメ	695,620	711,000	674,090	690,480	1.97	1.85	1,324,760	1,275,180
乾燥エンドウ	378,390	396,600	364,020	375,150	2.14		778,140	
レンズマメ	113,720	196,270	104,810	189,390	1.46		152,720	
リンクルドシードピー	(未詳)		(未詳)		(未詳)		28,030	

2015年10月9日公表、米国農務省(USDA)農業統計委員会国内農業統計局(NASS)データは、入手可能な最新の報告書または前回の報告書推定データによる。現行年度の推定は、2015収穫年度全期間に関するものである。空欄は、推定期間がまだ始まっていないことを示す。

表2 米国の乾燥インゲンマメ州別生産見通し（2014年及び2015年10月1日現在の予測値）

州名	作付面積(ha)		収穫面積(ha)		単収(t/ha) 2/		生産量(t) 2/	
	2014	2015	2014	2015	2014	2015	2014	2015
アリゾナ州 1/	4,450	3,640	4,410	3,600	2.17	2.19	9,570	7,890
カリフォルニア州	19,420	17,400	19,220	17,200	2.45	2.47	47,170	42,410
コロラド州	18,620	19,830	17,810	18,620	2.13	2.58	37,870	47,990
アイダホ州	50,590	48,560	50,180	48,160	2.02	2.02	101,240	97,160
カンザス州	1,820	2,830	2,790	2,630	1.92	1.91	5,350	5,030
ミシガン州	101,170	109,270	99,270	107,650	2.17	2.13	215,410	229,250
ミネソタ州	62,730	76,890	59,890	73,650	2.19	2.19	130,950	160,980
モンタナ州 1/	15,180	18,620	14,970	18,210	1.83	2.02	27,350	36,740
ネブラスカ州	66,770	56,660	61,510	52,200	2.80	2.58	172,370	134,580
ニューメキシコ州 1/	4,250	5,060	4,250	5,020	2.13	2.35	9,070	11,790
ニューヨーク州	3,240	3,240	3,120	3,160	1.67	2.12	5,220	6,710
ノースダコタ州	254,950	267,090	24,880	261,020	16.03	1.35	398,930	351,080
オレゴン州 1/	3,440	4,050	3,440	4,050	2.53	2.58	8,710	10,430
サウスダコタ州	5,670	5,060	5,220	4,730	2.11	2.30	11,020	10,890
テキサス州	9,310	12,550	8,500	11,330	1.37	1.29	11,610	14,610
ワシントン州	52,610	44,520	52,200	44,110	1.68	1.57	87,770	69,220
ウイソコンシン州 1/	3,200	3,200	3,200	3,200	2.78	2.81	8,890	8,980
ワイオミング州	17,000	125,460	15,220	11,940	2.38	2.47	36,240	29,440
米国全体	695,620	711,000	674,090	690,480	1.97	1.85	1,324,760	1,275,180

1/ 現行年度の推定値は、年度当初の予測に基づく。

2/ 夾雑物を除去した値。

2015年10月9日公表。米国農務省(USDA)農業統計委員会国内農業統計局(NASS)

表3 乾燥インゲンマメの州別及び銘柄別作付面積の推移（2014年度及び2015年8月1日現在の推定値）

州名及び銘柄名	2014 (ha)	2015 (ha)	州名及び銘柄名	2014 (ha)	2015 (ha)	州名及び銘柄名	2014 (ha)	2015 (ha)
ラーゼライマ			ダークレッドキドニー			大粒ヒヨコマメ(ガルバンゾ、直径20/64インチ以上)		
カリフォルニア州	3,280	4,330	カリフォルニア州	570	1,210	カリフォルニア州	3,760	3,120
ベビーライマ			アイダホ州	610	730	アイダホ州	18,210	15,380
カリフォルニア州	6,030	2,390	ミシガン州	1,340	1,700	モンタナ州	(D)	(D)
ネイビー			ミネソタ州	16,150	22,460	ネブラスカ州	-	0
アイダホ州	610	1,010	ニューヨーク州	570	970	ノースダコタ州	1,780	970
ミシガン州	3,320	2,790	ノースダコタ州	690	1,250	オレゴン州	(D)	(D)
ミネソタ州	20,400	19,260	オレゴン州	(1/)	320	サウスダコタ州	(D)	(D)
ネブラスカ州	(1/)	320	ワシントン州	1,420	1,250	ワシントン州	27,520	22,660
ノースダコタ州	43,300	42,090	ウイスコンシン州	2,670	3,200	その他 3/	8,740	12,260
オレゴン州	(1/)	400	米国全体	24,000	33,100	米国全体	60,010	54,470
サウスダコタ州	2,100	490	ピンク			ヒヨコマメ全品種(ガルバンゾ)		
ワシントン州	450	320	アイダホ州	2,430	710	カリフォルニア州	3,760	3,120
ワイオミング州	200	400	ミネソタ州	1,740	1,700	アイダホ州	29,950	28,330
米国全体	100,240	92,230	ノースダコタ州	4,490	3,880	モンタナ州	12,750	16,590
グレートノーザン			オレゴン州	(1/)	-	ネブラスカ州	-	80
アイダホ州	1,620	1,660	ワシントン州	400	200	ノースダコタ州	2,590	3,120
ネブラスカ州	30,760	14,570	米国全体	9,060	8,500	オレゴン州	440	400
ノースダコタ州	4,170	1,940	スモールレッド			サウスダコタ州	1,130	1,740
ワイオミング州	5,460	810	アイダホ州	3,240	4,050	ワシントン州	36,420	33,990
米国全体	42,010	18,980	ミシガン州	8,090	10,160	米国全体	87,050	87,370
スモールホワイト			ノースダコタ州	1,090	2,990	その他		
アイダホ州	930	730	ワシントン州	1,620	2,670	アリゾナ州	1,540	3,640
オレゴン州	(1/)	570	米国全体	14,040	19,870	カリフォルニア州	2,100	2,510
米国全体	930	1,300	クランベリー			コロラド州	2,100	2,430
ピントー			カリフォルニア州	320	160	アイダホ州	2,270	1,010
アリゾナ州	1,940	(1/)	ミシガン州	1,620	2,140	カンザス州	810	690
コロラド州	14,160	12,950	米国全体	1,940	2,310	ミシガン州	2,990	2,750
アイダホ州	7,690	10,120	ブラック			ミネソタ州	4,050	5,180
カンザス州	2,230	2,550	アイダホ州	570	1,420	モンタナ州	-	-
ミシガン州	810	810	ミシガン州	48,560	52,000	ネブラスカ州	850	1,620
ミネソタ州	3,970	4,450	ミネソタ州	9,470	14,240	ニューヨーク州	400	320
モンタナ州	2,430	2,020	ネブラスカ州	1,500	1,620	ノースダコタ州	2,750	3,400
ネブラスカ州	28,730	33,590	ニューヨーク州	770	650	オレゴン州	1,900	650
ニューメキシコ州	4,250	5,060	ノースダコタ州	32,370	57,470	サウスダコタ州	1,250	1,660
ノースダコタ州	163,490	146,900	オレゴン州	320	530	テキサス州	610	610
オレゴン州	400	810	ワシントン州	2,020	2,550	ワシントン州	3,970	1,900
サウスダコタ州	1,170	970	米国全体	95,590	130,470	ウイスコンシン州	530	-
ワシントン州	4,860	4,730	ブラックアイ			ワイオミング州	1,290	2,020
ワイオミング州	10,040	9,310	アリゾナ州	970	(1/)	米国全体	29,500	30,390
米国全体	246,020	234,270	カリフォルニア州	2,590	3,320	乾燥インゲンマメ全品種		
ライトレッドキドニー			テキサス州	8,700	11,130	米国全体	695,610	709,170
カリフォルニア州	770	360	米国全体	12,260	14,450	2015年10月9日公表。米国農務省(USDA)		
コロラド州	2,270	3,240	小粒ヒヨコマメ(ガルバンゾ、直径20/64インチ未満)			農業統計委員会国内農業統計局(NASS)		
アイダホ州	690	850	アイダホ州	11,740	12,950	(D) 個別の経営主体の生産量の開示を防ぐために公表せず。		
ミシガン州	4,570	3,680	モンタナ州	(D)	(D)	1/ 個別の経営主体の生産量の開示を防ぐために、「その他」にデータを含める。		
ミネソタ州	6,960	9,590	ノースダコタ州	810	2,140	2/ 個別の経営主体の生産量の開示を防ぐために、一定量のライトレッドキドニーを含む。		
ネブラスカ州	4,940	8,900	オレゴン州	(D)	(D)	3/ 上記の理由で公表されていないデータを含む。		
ニューヨーク州	1,500	1,290	サウスダコタ州	(D)	(D)			
オレゴン州	360	360	ワシントン州	8,900	11,330			
ワシントン州	1,460	930	その他 3/	5,580	6,470			
米国全体	23,510	29,220	米国全体	27,030	32,900			

カナダ：2015年9月24日公表 AAFC Outlook for Principal Field Crops

本報告書は、カナダ農業食料省（AAFC）が7月に公表したカナダの2014/15作物年度及び2015/16作物年度の生産見通し報告書を更新するものである。大部分の作物について、カナダの作物年度は8月1日に始まり、7月31日に終わる。

豆類

乾燥エンドウ

2014/15年度のカナダの輸出量は、300万tで2013/14年度に比べて8%増加しており、カナダの輸出量として過去最高記録に近い値となった。インドへの輸出量の増加及びバングラデシュへの輸出量が過去最高に達したことは、中国、米国及びEU27カ国への輸出量の減少によって相殺された。国内利用量の急激な減少により、期末在庫量は大幅に増加して重荷となる水準に達している。2014/15年度の期末在庫量が多いことから、乾燥食用エンドウの平均価格は、2013/14年度に比べて変わらないものと予測されている。2014/15年度の緑色乾燥エンドウ及び飼料用エンドウの作物年度平均価格は大幅に低下しており、黄色乾燥エンドウの価格は前年度に比べて大きく上昇している。

2015/16年度のカナダの乾燥エンドウ生産量は、STC（カナダ統計局）の推定によれば、2014/15年度に比べて23%減少し

て290万tとなる見込みである。しかし、この推定が現実となった場合には、カナダの乾燥エンドウ生産量としては2011/12年度以来最低の値となる。これは主として単収が大幅に低下したことと、収穫面積が7%減少したことによるものである。州別に見ると、サスカチュワン州が乾燥エンドウ生産量の54%を占めており、アルバータ州が42%を占め、残りをマニトバ州及びブリティッシュコロンビア州が占めている。しかし、期初在庫量が多かったことから、供給量の減少率は19%で、340万tとなるものと予測されている。輸出量は減少して250万tとなるものと予測されており、引き続きインド、中国及びバングラデシュがカナダの輸出先の上位三位までを占めている。期末在庫量もまた大幅に減少するものと見込まれている。カナダの供給量及び期末在庫量が少ないことから、平均価格は2014/15年度に比べて上昇する見込みである。

米国の2015/16作物年度の乾燥エンドウ作付面積は、米国農務省の予測によれば、2014/15年度に比べて5%増加して、過去最高記録の100万エーカー（40万4,700ha）に達する見込みである。これは主としてモンタナ州及びノースダコタ州で作付面積の増加が見込まれていることによるものである。単収及び収穫を断念する割合が平年並みであるとすると、米国の乾燥エンドウ生産量は、AAFCの予測によれば、わずかに増加して80万tとなる見込みである。米国はカナダとの共通の市場であるインド及び中国への少量の乾燥エンドウの輸出に成功

しており、2015/16年度も引き続き、米国がこの市場に一定の割合を占める見込みである。

レンズマメ

2014/15作物年度の輸出量は2013/14年度を27%上回って、過去最高記録の220万tに達した。この総輸出量のうち、140万tが赤色レンズマメであり、残りの80万tが緑色レンズマメであった。主要な市場はインド、トルコ、アラブ首長国連邦及び南米であった。国内総利用量は2013/14作物年度とほぼ変わらず、19万tであった。過去最高記録の輸出量の影響で期末在庫量が少ないことから、カナダのレンズマメ平均価格は、2013/14作物年度に比べてかなり上昇した。赤色レンズマメの価格は2年連続で大粒緑色レンズマメを大幅に上回った。

2015/16作物年度のレンズマメ生産量は、STCの推定によれば、5%増加して210万tとなる見込みである。これは、カナダのレンズマメ生産量としては史上第2位の記録である。

単収が極端に低い見込みであることで、作付面積が過去最高記録であったことが部分的に相殺された。2014/15作物年度と比べて作付面積は24%増加しているが、増加の大部分が赤色レンズマメの作付けの増加によるものである。州別に見ると、サスカチュワン州がレンズマメ作付面積の95%を占めており、残りはアルバータ州で作付けされている。期初在庫量が少なかったことから供給量は12%減少する見

込みである。輸出量は2014/15作物年度に比べて10%減少して200万tとなる見込みである。期末在庫量は2014/15作物年度に比べて27%減少して26万5,000tとなる見込みである。カナダの輸出需要が200万t近い値になるとすれば、平均価格は2014/15作物年度を上回る見込みである。

米国の2015/16作物年度のレンズマメ作付面積は、米国農務省の予測によれば、2014/15年度に比べて急激に増加して50万エーカー（20万2,350ha）となる見込みであるが、これはモンタナ州及びノースダコタ州で作付面積が増加したことによるものである。単収及び収穫を断念する割合が平年並みであるとする、2015/16作物年度の米国のレンズマメ生産量は、AAFCの予測によれば、前年度に比べて大幅に増加して30万t近い値となる見込みである。米国産レンズマメの主要な輸出市場は、引き続きインド及びEU27カ国となる見込みである。

乾燥インゲンマメ

2014/15作物年度の乾燥インゲンマメ輸出量は、カナダの供給量が多いことから、2013/14作物年度をわずかに上回る値となる見込みである。米国及びEU27カ国が引き続きカナダ産乾燥インゲンマメの主要な市場であり、これより少量が日本、中東及びアフリカ諸国へ輸出されている。北米全体の供給量が増加していることが2014/15作物年度の米国及びカナダの乾燥インゲンマメ、特にwhite pea bean（白いんげん豆）の価格が急激に低下する主な原因となって

いる。

2015/16作物年度のカナダの乾燥インゲンマメ生産量は2014/15作物年度に比べて10%減少して25万tとなると予測されており、これは主にマニトバ州で作付面積が減少したことによるものである。さらに、前年度に比べて単収が低下している。州別に見ると、オンタリオ州が乾燥インゲンマメ作付面積全体の46%を占めており、マニトバ州が32%、アルバータ州が20%で、残りがケベック州となっている。生産量が減少したことから、供給量は減少する見込みである。輸出量は前年度並みに留まる見込みである。カナダは引き続き中東及びアフリカ諸国での輸出市場における占有率を拡大する見込みである。その結果、期末在庫量は減少する見込みである。北米全体での供給量がやや減少する見込みであることから、カナダの乾燥インゲンマメ平均価格はわずかに上昇するものと見込まれている。

米国の乾燥インゲンマメ作付面積は、米国農務省の予測によれば、2%増加して150万エーカー（60万7,000ha）を上回る見込みであるが、これはノースダコタ州及びミネソタ州で作付面積が増加したことによるものである。2015/16作物年度の米国の乾燥インゲンマメ生産量（ヒヨコマメを除く）は、米国農務省の予測によれば、2014/15作物年度に比べてわずかに増加して120万tとなる見込みである。最も増加が顕著なのはブラック・ビーンであり、次いでキドニー・ビーンとなっている。

ヒヨコマメ

2014/15作物年度のカナダのヒヨコマメ輸出量は、2013/14作物年度のほぼ2倍近い8万tとなり、2010/11作物年度以来最大の輸出量となった。米国、EU27カ国からの需要、及びトルコ経由で中東諸国からの需要が増加したことが、輸出量の増加の背景となっている。供給量が多かったことから、輸出量が増加しているにも関わらず、期末在庫量はわずかな減少に留まり、過去5年間の平均を上回っている。在庫量が多いことから、平均価格はわずかに上昇しただけである。

2015/16作物年度の実生産量は30%以上減少して9万tとなる見込みであるが、これは単収が低く、作付面積が減少したことによるものである。州別に見ると、サスカチュワン州がヒヨコマメ生産量全体の96%を占め、残りをアルバータ州が占めているが、これは期初在庫量が多かったことによるものである。輸出量は2014/15作物年度に比べて減少する見込みであるが、期末在庫量は引き続き減少する見込みである。平均価格は上がるものと見込まれているが、これはカナダが引き続き多量の国内在庫量を消化できると見込まれていることによる。

2015/16作物年度の米国のヒヨコマメ作付面積は、米国農務省の予測によれば、22万エーカー（8万9,034ha）で、2013/14作物年度と大きな変化はない見込みである。単収及び収穫を断念する割合が平年並みであるとする、2015/16作物年度の米国のヒヨコマメ生産量は、AAFCの予測に

よれば、13万tと見込まれており、前年度 と等しい値となる見込みである。

表4 カナダの豆類作付・収穫面積、単収、生産量その他

	乾燥エンドウ [a]			レンズマメ [a]			乾燥インゲンマメ [a]			ヒヨコマメ [a]		
	2013-2014	2014-2015[f]	2015-2016[f]	2013-2014	2014-2015[f]	2015-2016[f]	2013-2014	2014-2015[f]	2015-2016[f]	2013-2014	2014-2015[f]	2015-2016[f]
作付面積 (1,000ha)	1,345	1,613	1,499	1,101	1,263	1,566	100	126	116	77	73	54
収穫面積 (1,000ha)	1,329	1,588	1,477	1,090	1,217	1,554	100	122	115	76	70	52
単収 (t/ha)	2.98	2.4	1.98	2.08	1.63	1.34	2.32	2.27	2.16	2.33	1.87	1.72
生産量 (1,000t)	3,961	3,810	2,921	2,262	1,987	2,083	232	278	249	177	131	90
輸入量 [b] (1,000t)	25	30	30	9	13	10	73	85	75	9	8	8
総供給量 (1,000t)	4,160	4,169	3,380	2,738	2,786	2,458	335	368	359	240	269	223
輸出量 [b] (1,000t)	2,781	3,004	2,500	1,753	2,229	2,000	304	307	305	48	80	70
国内総利用量[c] (1,000t)	1,050	736	730	199	193	193	26	26	29	62	64	63
期末在庫量 (1,000t)	329	429	150	786	365	265	5	35	25	130	125	90
在庫量/利用量 (%)	9	11	5	40	15	12	2	11	7	118	87	68
平均価格 [d] (\$/t)	260	260	295-325	445	585	750-780	995	845	770-800	500	515	600-630

[a] 作物年度(8月から7月)

[b] 輸入量及び輸出量には加工品の量は含まれない。

[c] 国内総利用量=食用及び加工原料用+飼料用廃棄物+種子用+損耗。国内総利用量は、総供給量から輸出量及び期末在庫量を差し引いて算出した値である。

[d] 生産者価格 (FOB)。すべての銘柄、等級及び市場の平均。

[f] 推定。カナダ農業食料省。2015年9月24日付け。

資料：カナダ統計局及び業界団体。

オーストラリア：2015年9月8日公表 ABARES Australian crop report

概観

オーストラリアでは生産地域の大部分で冬季を通じて良好な条件に恵まれ、その結果、2015/16年度の冬作生産量は増加する見込みである。ニューサウスウェールズ州では冬季の降水量が平年並みを上回り、西オーストラリア州及び南オーストラリア州では適期に降雨が得られた。しかし、ヴィクトリア州ではすべての主要生産地域で冬季の降水量が平年並みを下回った。

気象庁が2015年8月27日付けで発表した最新の降水量3ヵ月予測（2015年9月から11月）によれば、ニューサウスウェール

ズ州、ヴィクトリア州、南オーストラリア州及び西オーストラリア州の大部分の生産地域については、降水量は平年並みを上回る見込みである。クイーンズランド州の大部分の生産地域では、春季の降水量は平年並みに近い値となる見込みである。

冬季を通じて全般的に良好な条件に恵まれたことと、春季の降水量が良好な見通しであることから、2015/16年度の冬作生産量の予測はABARESによる2015年7月時点での予測値から上方修正された。すべての主要生産州について、生産量の予測値が上方修正されたが、それでもヴィクトリア州の生産量予測値は平年並みを下回っている。

表5 オーストラリアの豆類作付面積及び生産量

冬作	作付面積 (1,000ha)			生産量 (1,000t)		
	2013-14	2014-15s	2015-16f	2013-14	2014-15s	2015-16f
ヒヨコマメ	508	425	662	629	555	990
ファバビーン (ソラマメ)	152	164	259	328	284	419
フィールドピー	245	237	235	342	290	288
レンズマメ	170	189	213	254	242	321
ルーピン	387	443	487	626	549	735

f: ABARESによる予測。s: ABARESによる推定。

注: 作物年度は、4月1日から3月31日までの12カ月間に作付けされた作物を対象とする。首都圏の数値及びオーストラリア北部の数値をオーストラリア全体の生産量に含めるかどうかによって、各表の間で若干の差異が生じる場合がある。

資料: ABARES(オーストラリア農業経済及び農業科学庁)、オーストラリア統計局、Pulse Australia

表6 州別生産量

作物名	ニューサウスウェールズ州		ヴィクトリア州		クイーンズランド州		南オーストラリア州		西オーストラリア州		タスマニア州	
	作付面積	生産量	作付面積	生産量	作付面積	生産量	作付面積	生産量	作付面積	生産量	作付面積	生産量
	1,000ha	1,000t	1,000ha	1,000t	1,000ha	1,000t	1,000ha	1,000t	1,000ha	1,000t	1,000ha	1,000t
冬作												
ヒヨコマメ												
2015-16f	291	441	13	13	338	518	17	15	3	4	0	0
2014-15s	209	282	26	52	165	201	21	16	3	4	0	0
2013-14	220	251	48	50	216	296	19	27	5	6	0	0
2014-15年度までの5年間の平均	271	316	41	55	189	243	16	19	5	5	0	0
フィールドピー												
2015-16f	48	71	53	52	0	0	112	129	22	36	0	0
2014-15s	51	66	51	65	0	0	110	127	25	32	0	0
2013-14	50	53	51	68	0	0	112	184	32	37	0	0
2014-15年度までの5年間の平均	44	54	54	73	0	0	111	157	56	53	0	0
レンズマメ												
2015-16f	3	3	100	114	0	0	111	205	0	0	0	0
2014-15s	1	1	86	80	0	0	102	162	0	0	0	0
2013-14	1	1	79	112	0	0	89	141	1	1	0	0
2014-15年度までの5年間の平均	1	1	86	110	0	0	96	158	1	1	0	0
ルーピン												
2015-16f	62	76	32	42	0	0	68	85	326	532	0	0
2014-15s	56	66	32	26	0	0	68	75	287	382	0	0
2013-14	57	57	28	29	0	0	56	78	246	461	0	0
2014-15年度までの5年間の平均	75	104	35	38	0	0	62	79	372	464	0	0

f: ABARESによる予測。s: ABARESによる推定。

注: 作付面積が500ha未満である場合、または生産量が500t未満である場合には、四捨五入により作付面積または生産量の推定値あるいは予測値がゼロと表示される場合がある。

資料: ABARES(オーストラリア農業経済及び農業科学庁)、オーストラリア統計局、Pulse Australia

表7 オーストラリアの豆類供給及び利用状況

作物名	2008-09	2009-10	2010-11	2011-12	2012-13	2013-14
	(1,000t)	(1,000t)	(1,000t)	(1,000t)	(1,000t)	(1,000t)
ルーピン	708	823	808	982	459	626
フィールドピー	238	356	395	342	320	342
ヒヨコマメ	443	487	513	673	813	629
見かけ上の国内利用量 ^a						
ルーピン	404	470	621	416	290	310
フィールドピー	104	196	95	130	145	175
ヒヨコマメ	1	1	39	93	1	0
輸出量						
ルーピン	304	353	186	565	169	316
フィールドピー	137	162	302	215	177	169
ヒヨコマメ	508	503	474	581	853	629

a: 生産量に輸入量を加えた値から、輸出量を引き、さらに在庫量に明らかな変化が認められた場合には、その値を引いて算出した値。

注: 生産量、利用量、輸出入量及び在庫量は、市場年度に基づいている。ピー及びルーピンの市場年度は、11月から10月まで。在庫量の増減があることから、生産量は、単年度内の見かけ上の国内利用量と輸出量を足した値とは一致しない場合がある。輸出量のデータは、市場年度に基づく輸出期間を参照したものであって、他の資料で公表されている財務年度に基づく輸出量とは一致しない場合がある。

資料: ABARES (オーストラリア農業経済及び農業科学庁)、オーストラリア統計局、PulseAustralia

表8 豆類価格の推移

豆類	2013	2014	2014	2014	2014	2015	2015
	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期
	豪ドル/t						
国内価格: ルーピン (クィナナ調べ)	309	349	327	293	322	350	320
国内価格: ヒヨコマメ (メルボルン調べ)	390	437	449	433	449	607	768
国内価格: フィールドピー (メルボルン調べ)	335	366	389	366	361	433	530
輸出価格: ヒヨコマメ ^b	498	537	534	556	571	618	699
輸出価格: フィールドピー ^b	420	422	431	468	462	513	575

b: 単位重量当たりの輸出価格は、その四半期に輸出された穀物の平均価格を反映したものであって、現在の市場価格とは異なる。ここに示した価格は、オーストラリア統計局が記録したオーストラリアからの輸出の単位重量当たり平均価格(F.O.B.本船渡し)である。輸出業者による価格の取り決めの時点と、実際に輸出が行われる時点の間には、大きな時間差が生じる場合がある。

注: 第1四半期は1月から3月まで。第2四半期は4月から6月まで。第3四半期は7月から9月まで。第4四半期は10月から12月まで。価格の算出に当たっては、商品サービス税(GST)を除外している。

資料: ABARES(オーストラリア農業経済及び農業科学庁)(多様な市場関係筋の情報から集約)、オーストラリア統計局